

リーダーになる!

実践する上司学。
よきリーダーに、よき上司になるために。



編津良智留リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第17回 夫のリーダーシップ

少子化は重大な問題です。企業の育児支援と父親の積極的な子育てへの参加が今求められていると思います。

最近、日本で非常に目につく記事があります。それは、子育て支援に関する記事です。

企業にアンケートを取ると、9割が従業員の子育て支援は、人材確保に有効と感じており、特にこれから少子化が進む中で、女性の人材確保に有効と答えています。優れた人材の争奪戦が激しくなる中で、子育て支援は企業の競争力を左右する経営課題になってきています。

とも判明しています。

優しくない
日本人男性

その半面、子供を持つ家庭の2割が「子供の育て方に自信が持てない」と悩んでおり、「1週間の父子の会話が10時間未満」が半数と、父親の子育てに対する関わり方の薄さがうかがえます。そしてさらに「家事や育児は妻任せ」という8割の夫の姿勢に対して、妻の半数が不満を抱えているそうです。夫の育児への協力度が高いほど、子供の数や妻が欲しいと思う子供の数が多い傾向にあるこ

先日あるテレビで少子化に関する討論をしていたのですが、ある女性のコメントーターが「日本の男性は外国の男性に比べて、子供や女性やお年寄りに優しくないのも原因だ」という。日本の男性は乳母車に赤ちゃんを乗せて階段の下で立ち往生をしても助けようとしないうし、電車で妊婦が目の前に立っているのに座席に座ったままだらんと振り。これでは、女性も安心して子供を産めないとおっしゃっていました。以前

わたしの妻が駅の階段で転んだときに誰も助けてくれなかったと言っていて嘆いていたのを思い出しました。

立ち上げれ
企業と夫たち

少子化にはいろいろな問題が深く絡み合っています。女性の晩婚・晩産化、非婚化が進み、子育てに伴う経済的負担の重さや仕事

との両立の難しさが、女性に出産をためらわせている面が大きいといえ、個人の価値観に左右されやすい晩婚・晩産化を食い止める即効薬はなかなか見当たらないのが現状かもしれません。

仕事と家庭の両立支援が手厚い企業は、社員のやる気や一人当たりの経常利益が高いという調査結果もあります。大手の企業とベンチャー企業とは現実問題の差はあるにせよ、少子化を防ぐためにも、今こそ「企業」と「男」が自分い何ができるかを考えて、立ち上がる時かもしれません。

(記事協力・Asia X)

リーダーになるツール

役立つ書籍や道具などを紹介



「40代男塾」

ビジネス書の著者30人が、40代の本音、仕事の本音、男の本音を語る。上の世代が作った常識が壊され、まったく違う価値観を持つ下の世代に挟まれた「狭間の世代」の40代。本書は、働き盛りと言われながら、悩みを抱える40代男性にエールを送る。(李白社/1680円)